

J R 東日本労働組合

N A G A N O

E-mail naga-30-naga@hotmail.co.jp



2017年 6月12日 No. 212

JR東日本労働組合

長野地方本部

発行者：篠原和幸

編集：情宣部

東日本大震災から6年・・・映画から大震災の現実を知ろう！

映画鑑賞の取り組みを行います！

東日本大震災から6年が経過しました。現在も復興を目指し、様々な取り組みを行っていますが、大震災前の状態には程遠い現状が今でもテレビや新聞でも報道されています。特に福島県の大震災の影響を受けた地域は、帰宅困難区域・居住制限区域などが設定され、事故前に住んでいた住民の方々は帰れる目処さえ立たない状況が続いています。

今回みなさんに取り組んでいただく映画鑑賞は、福島県の農家が舞台になっているドキュメンタリー映画です。大震災から月日が経つに従い、大震災を扱った報道が激減しています。特に一般の方の状況というのは、報道をされることもありません。映画を通して、長野に住んでいる私たちは過去のものとして捉えてしまっている東日本大震災。それによって発生した原発事故に対して考えていただきたいと思います。組合員のご協力をお願いします。

ドキュメンタリー映画

～大地を受け継ぐ～（主なあらすじ）

原発事故後、福島で苦悩しながら農業を続ける家族と東京の若者達との対話を描いたドキュメンタリー映画。

原発事故を受け、農業団体から「農作物出荷停止」のファックスが届いた翌朝、須賀川市で農業を営む男性が自ら命を絶った。

残された息子と母は畑を耕し続ける。生前父から「良い土を作らないと美味しい野菜はできない」と言われていた。代々受け継いできた土地を捨てるわけにはいかないと、農業を続けている。しかし、検査を受けているとはいえ、汚染された土地の作物を流通させる罪の意識、東電との闘い、身内からの非難など、終わりが見えない進行形の様々な葛藤が語られた。

「これは風評じゃない、現実なんだ！」という息子の話を聞いた若者達は何を思い、何を受け継ぐのだろうか。

ドキュメンタリー映画 井上淳一監督作品

大地を受け継ぐ

知らなければ、何も始まらない
だから、ボクらは福島へ向かった――

2015年/86分

相生座
ロキシー
百周年

2017年
7月1日 [土] ～7日 [金] 長野相生座・ロキシー

11人の子どもたちが福島へ向かった。
知られざる農家の孤独な声に心を揺さぶられる、
たった一日の食と命の体験。

- 上映 10:00～
- 上映後【舞台挨拶】
井上淳一監督
※ 舞台挨拶は、7/1のみ
- 前売券 1,000円
(当日券 1,200円)
※ 7/1の当日券は、映画ファン感謝デーのため100円です

上映前夜イベント

「今、原発について考える」
ミニ上映会 & トークショー (井上淳一監督)

開催日: 6月30日 (金)
会場: 長野市権堂 インディア・ザ・ロック
開場: 19:00
上映: 『あいつとぼく』 (2時間6分)
※ 上映はアーティストトークと同時進行で行われます
参加費: 2,000円 (飲み放題・軽食付き)

〈映画「大地を受け継ぐ」を長野で上映する会 長野総合運輸区分会の若林さんから〉

報道や人々の感心もどんどん薄らいでいます。自分を含め日常生活の中で、忘れがちになってしまっているのが現実ですが、現在でも何万人もの方々が非難生活を余儀なくされています。大切な家族や故郷を失った方々の気持ちを本当に理解することは出来ないかもしれませんが、少なくとも被災者の方々の気持ちを「理解する努力」だけは、怠りたくないと思います。そんなことを考える「きっかけ作り」になってくれれば嬉しく思います。

詳細は長野地本までお問い合わせ下さい！